LISZT FRIENDS

特定非営利活動法人 リスト音楽院友の会 会報
NO. 4

2008年 10月27日発行
発行元:
特定非営利活動法人 リスト音楽院友の会

〒500-8879 岐阜市徹明通1丁目9番地
TEL 058-264-1501 FAX 058-262-8011
E-mail: kota@lisztfriends.mydns.jp
URL: http://www.geocities.jp/lisztfriends/

リスト音楽院フェスティバル２００８と理事就任のご挨拶

会員の佐部利 弦です。今年夏のリスト音楽院フェスティバルは、とても盛況で、2組のペアの出演者のみなさんと聴衆の方々の意思が通じ合った、良い演奏会となったことを、嬉しく思います。音楽を勉強している者にとって、人前で演奏できるということは、一番幸せなことです。このような機会を与えてくださる「友の会」は本当に素晴らしい会だと思います。さて今回、コンサート前に開催された総会において、新任の理事として選出されました。大任ではありますが、演奏家会員のひとりとして、今後もたくさんの音楽家による素晴らしいコンサートが開催されていくことを願っています。この会の益々の発展に、少しでもお役にたてるよう頑張っていきたいと思っております。

特定非営利活動法人 リスト音楽院友の会
理 事 佐部利 弦

☆主催事業一終了報告☆

♪ リスト音楽院フェスティバル２００８

２００８/8/7［木］ ７：００pm 開演 真鍋記念館クララザール（岐阜市本郷町 1-２８）全席自由 ３，０００円
出演：近江 秀崇（ピアノ）、辻 和余（ヴァイオリン）、渡邉 さらさ（ピアノ）、大竹 由夏（フルート）

毎年夏恒例の「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」の期間中、当法人の主催コンサート「リスト音楽院フェスティバル２００８」を開催しました。

今年の出演者は、近江 秀崇さん（ピアノ）と辻 和余さん（ヴァイオリン）、そして、渡邉 さらさ さん（ピアノ）と大竹 由夏さん（フルート）の２組のペアでした。会場は、岐阜市の真鍋記念館クララザール。小ホールですが、とてもモダンで綺麗はホールです。毎年チェロのオンツァイ先生のレッスン会場になっています。

お陰さまで、客席は満席近くの約１２０名のご来場者で盛況でした。

近江さんは、愛知県尾張旭市のご出身で、２００２～２００５年に留学されました。渡邉さんは、２００３～２００５年に留学され、東京都のご出身ですが、ご勤務先が中京短期大学で、現在、岐阜県瑞浪市にお住まいです。今回初めての管楽器、フルートでご出演の大竹さんは、三重県桑名市のご出身で、２００３～２００５年に留学されました。ヴァイオリンの辻さんは、岐阜市出身・在住で、２００６年に「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」を受講され、留学選考会に合格されました。

まず、大竹さんと渡邉さんの「萎める花」によるフルートとピアノのための序奏と変奏曲からプログラムは始まり、その後、渡邉さんのピアノソロでラフマニノフ。そして、また大竹さんとのフルート曲。

後半は、辻さんと近江さんの組み合わせで、ヴェートベンのヴァイオリン・ソナタ「春」第１楽章から。そして、近江さんのピアノソロ、リストの２曲。そして、また辻さんとのヴァイオリン曲２曲と、２組のペアが、それぞれ持ち味を出しての、好演でした。ピアニストのお二人には、舞台でのご挨拶と紹介をお願いしたのですが、ご来場者とのなごやかな交流ができて、好評でした。アンコールもそれぞれのペアで１曲ずつ。

終演後は、岐阜市在住の演奏家会員と役員を交えての打ち上げ。まずは、コンサートの成功を祝って乾杯。その後、話は止まるところを知らず、ハンガリーの話などで盛り上がり、アッという間に予定の時間を大幅に越えていました。今後、ハンガリーを通じた多くの演奏家のご参加とご協力の輪を広げ、その支援者の方々と共に、優秀な演奏家のみなさんによって、当法人もさらに大きく発展していくものと確信しました。

☆主催事業ー予告☆

♪ 弦楽室内楽（タイトル未定）

２００９年3月3日[火]　７：００ｐｍ　開演
電気文化会館　ザ・コンサートホール（名古屋・伏見）
出演：北山　まり子（ヴァイオリン）、新井　康之（チェロ）、池村　明子（ビオラ）、市古　洋子（チェロ）その他

☆演奏家会員のコンサート☆

♪ <終了>松田奈緒美ソプラノ・リサイタル with 大藪祐歌（ピアノ）

２００８年8月２２日（金）１９時開演　長久手町文化の家　森のホール（愛知県長久手町）
出演：松田　奈緒美（ソプラノ）、大藪　祐歌（ピアノ

♪ <終了>二人でピアノ　～ハンガリーの作曲家達～　<後援コンサート>

２００８年9月6日（土）１９時開演　西宮市プレラホール（西宮市）
出演：釈迦郡　洋介（ピアノ）、大前　香菜子（ピアノ）

♪ <終了>ソプラノ＆ピアノデュオ　原田 真以子　大藪裕歌

２００８年9月9日（火）１２時２０分開演　サラマンカホール（岐阜市）
出演：原田 真以子（ソプラノ）、大藪　祐歌（ピアノ）

♪ <終了>アンサンブル・ドナウ ―ブラームス室内楽シリーズⅢ―[ランチタイム名曲コンサート vol.113]

２００８年9月１１日（木）１１時３０分開演　宗次ホール（名古屋市）
出演：北山　まり子（ヴァイオリン）、新井　康之（チェロ）、原田　綾子（ピアノ）

♪ <終了>唐沢　安岐奈　チェロコンサート

２００８年１０月１１日（土）１８時００分開演　名古屋市守山文化小劇場（名古屋市）
出演：唐沢　安岐奈（チェロ）、唐沢　洋子（ピアノ）

♪ 近江秀崇　ピアノリサイタル　<後援コンサート>

２００９年3月２９日（日）１８時開演　電気文化会館　ザ・コンサートホール（名古屋市）
出演：近江　秀崇（ピアノ）

２００８年度通常総会議事録

１．日時：２００８年８月７日（木）　午後６時より午後６時３０分まで
２．場所：真鍋記念館クララザール　会議室　（岐阜市本郷町１－２８）
３．出席者：３０名　（表決委任者を含む）
４　審議事項
　⑴ 議長選任の件
　⑵ 議事録署名人の選任の件
　⑶ 平成１９年度の事業報告並びに収支決算について
　⑷ 役員等に関する件
　⑸ 平成２０年度の事業計画並びに収支予算について
５　議事の経過の概要及び議決の結果
　⑴ 議長に太田　功正が全会一致で選出された。
　⑵ 議長より、議事録署名人を奥住　信治、浅野　諭を選任したいとの提案があり、承認された。
　⑶ 矢島　潤一郎より、平成１９年度の事業報告並びに収支決算について報告があり、監事の奥住　信治より監査報告がされた後、全会一致で承認された。
　⑷ 矢島　潤一郎より、役員の選出について提案があり、理事に矢島　潤一郎、古川　展生、横森　俊雄、太田　功正、浅野　諭、新井　康之、（以上再任）佐部利　弦（新任）、監事に奥住　信治（再任）を選出した。また、そのうち矢島潤一郎が会長に、古川　展生、および　横森　俊雄が副会長に、太田　功正が事務局長（以上再任）に選ばれた。役員報酬については、なしとした。なお、任期は平成２０年９月１日より平成２１年８月３１日までの１年間とした。
　⑸ 矢島　潤一郎より、平成２０年度の事業計画並びに収支予算の提案があり、全会一致で承認された。

２００８年度理事会議事録

２００７年度第１回理事会

日時：２００８年４月２２日（火）　午後７時より午後８時２０分まで　場所：事務局３階
出席者：矢島会長、太田事務局長、浅野理事、奥住監事、佐部利 弦会員（古川副会長の委任代理）
　　横森副会長（会長に委任）、新井理事（会長に委任）
協議議題：
１）２００７年度決算概略
　２００７年度の決算の概略が事務局長から報告があり、これを基に収支決算書を作成することが了承された。
２）２００８年度事業全体計画の概略
　２００８年度の事業計画と収支予算の概略が事務局長より示され、これを基に総会に提出することが了承された。
３）２００８年８月上旬開催予定のコンサートの審議
　２００８年８月に開催される「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」の期間中に、主催コンサートを真鍋記念館クララザーで開催することを決定し、その詳細について審議した。（議事録署名者：太田事務局長、浅野理事）

２００８年度第２回理事会

日時：２００８年７月２２日（火）　午後７時より午後８時３０分まで　場所：事務局３階
出席者：矢島会長、太田事務局長、浅野理事、奥住監事、古川副会長（事務局長に委任）、
　　横森副会長（会長に委任）、新井理事（会長に委任）辻　和余会員（オブザーバー出席）
協議議題：
１）２００７年度事業報告書・決算書の件
　総会に議案として提案する２００７年度事業報告書および収支決算書が事務局長より提示され、了承された。
２）２００８年度事業計画の件
　総会に議案として提案する２００８年度事業計画書および収支予算書が事務局長より提示され、了承された。
３）２００８年８月７日（木）開催のコンサートの詳細
　あと２週間余りに迫った、主催コンサート「リスト音楽院フェスティバル２００８」の準備状況の詳細について協議し、その成功に向けて、役員一層の努力を尽くすこととした。
４）その他の協議事項
　今年度の事業計画として、来年３月に名古屋市において、主催コンサートを開催することが決定され、その概略について協議された。（議事録署名者：太田事務局長、浅野理事）

～　随　想　～

＜リスト音楽院修了生からの便り＞

松本　麻里子（ヴァイオリン）

　スーツケースとヴァイオリン、そして大きな夢と共に私がハンガリーへ降り立ったのは 2000 年の夏でした。

　前年に開催された「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」にて故キッシュ・アンドラーシュ教授との出会いに運命を感じ、両親を説き伏せて音楽高校卒業後かなった留学でした。

　１年間パートタイムの学生として在籍した後フルタイムの学生を５年、無事にディプロマを取得し現在はドイツ、ハノーファーで学んでいます。

　週に２回の実技レッスン、弦楽四重奏、ピアノとのデュオ、副科ピアノ、ソルフェージュ、和声、音楽史、音楽美学、音響学、心理学、哲学の授業などなど目まぐるしいリスト音楽院の学生生活。ハンガリー語ができなくて悔しい思いもたくさんしましたが、ハンガリーで得たものの中の一つに、音楽を通して自分を表現する力が身についていったことが挙げられると思います。

　旧ソ連の音楽教育メソッドの影響が色濃く残るハンガリーでは今も尚、古き良き時代のにおいのする音楽家が数多くいると言えますが、それに加えやはり感じずにいられないのはその独自の民族ならではの民族性です。多くの作曲家に影響を与えたハンガリーの伝統音楽。それが血の中に流れる彼らの奏でる音楽は何か誇らしげで独特の雰囲気と世界観があります。

　最も憧れたのはその音楽に対するまっすぐな姿勢が常に聴衆のほうへと向かう意識のあり方です。「舞台へ上がる時は足のつま先から頭のてっぺんまで責任をもちなさい。なぜなら聴衆は聞いているだけではないのだから。」様々な授業においてこれは良く聞かれた先生からのお言葉でした。それまでは、Ａという曲に対して技術的に難しい箇所の克服、強弱等表記記号を含めた絶対の暗譜＝曲の完成だと思っていた私は、その先にあるとても大切なことの存在を知らずに、ただ自分の満足の為に音楽と向き合っていた事を思い知るのです。音楽家としての在り方やその生き様を身近に肌で感じ、そしてそれをハンガリーで学んだのだと思います。

　ハンガリー留学生活６年の間にはいろいろな問題や困難がありましたが、ここでキッシュ先生と学べる事が嬉しいという思いが、ハンガリーで出会った仲間達が、そして遠く日本で応援してくれる両親の励ましが心の支えとなり乗り越えることができました。これから留学される皆さんや留学中の皆さんにとってハンガリーでの経験が素敵な宝物のようになりますように…。

2008年　夏　ハノーファーにて。

ハノーファーの学校の裏には森が広がります。

ハノーファー旧市街地

バラトン湖

国会議事堂（ブタペスト）

マルクト教会（ハノーファー）

第2次世界大戦の傷跡残る教会（ハノーファー）